

## 献呈の辞

経営学部教授山田雄一教授は、2004年3月末日をもって明治大学を定年退職されることになりました。73歳とはとても思えないほどお元気です。それにも拘わらず、本学の定年規則によって退職されることはまことに残念であります。

先生は1973年（昭和48年）4月に本学助教授として赴任され、以来31年の長きにわたって、経営学部および経営学研究科における教育・研究活動に携わってこられました。先生は学内行政の面では、経営学部経営学科長、経営学部長、明治大学長等の要職を歴任され、学部・大学の発展に尽くされました。

先生はその履歴一覧に示されているように、いわゆる象牙の塔で純粹培養されたキャリアとは対極の、官界（人事院）、実業界（旧富士製鉄・現新日鉄）、学界（茨城大学、明治大学）というそれぞれ異質な世界で活躍された、まことに多彩なキャリアの持ち主であります。先生の発想と発言は明晰な頭脳と深い学識はもとより、そうした豊かな実務経験に裏打ちされたものであります。実務と学問とを統一した稀有の実例を、先生に見ることができます。

先生に接する者は例外なく、先生の精密な論理的思考と広範な具体的事例とを瞬時に連結して展開される独特の弁舌に圧倒されるばかりでなく、はじめ講演とも講談とも聞こえ、ときに落語調にも聞こえる変幻自在の話術に引き込まれてしまう経験をもちます。山田節は知人ぞ知る経営学部の無形文化財なのです。

先生の鋭い舌鋒は、時として「山田先生は怖い」という評になることがあるようです。確かに先生は、不実と怠慢と不正に対しては徹底的に議論を挑みます。しかし、それは先生の「真面目」から出る一面にすぎません。先生をよく知る者は、その反面に優しさと寛容があることに気付きます。先生は人情のひとなのです。

この度、先生の在職中の御功績をたたえとともに、多年にわたる御指導に感謝と敬意を表し、本号を先生の退職記念号として刊行する運びになりました。今後とも私ども後進の御指導をお願いするとともに、先生の益々の御健勝をお祈り申し上げ、献呈のことばと致します。

2004年3月

経営学部長  
平井 克彦